



記念館だより

2020年10月号

「工夫」は生きる力

加藤 輝勢子

今でいうワンオペ（一人で家事、育児をすべてする）で子育てしていたころ、夫のたまの休みにどこかに旅行に行きたいと思いつつ、経済的にも時間的にも無理でした。そんな時に「ディスカバージャパン」をもじって「ディスカバー近所」といって、近所をよくバギーを押して家族で散歩しました。歩いてみると近くに美味しい豆腐屋さんがあることが分かったり、庭のきれいなお家があったり、豪邸が以前は有名な芸能人の家であったりといろいろな発見がありました。

最近、コロナ禍で遠くに行くよりは都内で、また近場でという「ディスカバー近所」という言葉が聞かれ、懐かしい響きだと思いました。

先日テレビで本所吾妻橋を取り上げられた番組を見ました。知っているお店もありましたが、まだまだ知らないお店や場所がいっぱいありました。せっかくだからもっと職場の近所も散策したいと思いました。関東大震災や東京大空襲を経て、今の町並みがあり、東京スカイツリーもでき、新たな街並みもできてきたのだと思いました。そしてその時代時代に生きた人の人生が織りなされていたのだと思います。

さて、コロナ禍では記念館の遊びにも変化がありました。夏休みはいつもと違って、プール遊びができないけれど、巨大シャボン玉づくりをしたり、泥だんごを作ったり、この泥だんごは砂場遊びの経験の記憶で新しい一年生がとても上手にできていたと聞きました。また、水と片栗粉で作るダイラタンシーのスライム等々、他にもいっぱいありますが、いろいろ子どもたちと工夫をして楽しい夏休みを過ごしたと聞きました。いつもの遊びができないのかえって、子どもたちといろいろ考えて充実した遊びができたこと、いつもなら夏はこれという概念で遊びを決めてしまうことがあるかもしれない、そしてそれはそれで楽しいこともあります。こんな時だから、今の時代を乗り切る知恵を絞りながら達成感のある遊びを子どもたちと工夫できることはとっても素敵なことだと思います。

学校が始まってから記念館の子どもたちの遊びへの工夫は邁進中です。この歩みが時代を乗り切る生きる力だと思います。

記念館の活動

2021年度 『ちょこっと市』のお知らせ

日時：11月1日(月) 16:00~18:30

会場：本所賀川記念館 3階

今年も新型コロナウイルス感染拡大を受けて、いつもの記念館大バザーは中止としました。しかし、コロナ禍において医療従事者の方々へ感謝を捧げたい、また年々脅威を増している自然災害の被災者の方々へ支援を届けたいという気持ちから、小さな小さなバザー（ちょこっと市）をします。気に入ったものがありましたらお持ちください。帰りにお志を捧げてください。よろしくご協力をお願いします。



皆、ウォールポケットやお守りの中にメッセージを書いて家族へプレゼントするのだと話していました。

コスモス会をかえいみて

高齢者のお弁当作りには戦後激動を生き抜いてこられた故鶴澤米子先生より人手不足との相談にいられて参加致しました。調理室に立つと、真の心が結び合い、楽しめる場でもありました。今日、時の流れを懐かしく思い出しております。皆さまのご協力あってのコスモス会、季節の流れを上手に取り入れながら美味しいお弁当が出来上がり、私たち高齢者の手元に届けられる楽しいひと時に心が潤います。活動される皆様に感謝致しております。今後共コスモス会の発展を心よりお祈り致しております。(永年の調理ボランティアを今年引退された 様から寄稿頂きました。)

記念館トピック

【賀川研究会】

『日本キリスト教史における賀川豊彦 その思想と実践』「賀川豊彦論」土肥昭夫著をテキストに学びます。

10/15(木) 19:00~

本所賀川記念館3F ホール

※ 新型コロナウイルスの拡大状況によっては延期となる場合があります。

学童クラブ

敬老の日工作として、『ウォールポケットとお守り』を作りました。リボンを穴に通す手先の細かい作業も作り方をよく読んだり、お友だちに教えてもらったりしながら自分の力で行っていました。お守りにリボンをつけたり、ウォールポケットにおじいちゃんとおばあちゃんの絵を描いたりと思い思いに創作を楽しんでいました。

(柳田)

美術教室



美術教室に通っているおともだちの消防車の絵が「令和3年第70回はたらく消防の写生会」で入賞しました。

東京消防庁のホームページで絵が見られます。

ピアノ教室

毎週月曜日

講師：土屋 紘枝先生

